

2021年度 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、2022年3月16日に「2020年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

2022年5月10日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 社本 太郎（株式会社 モンシエル代表取締役）
2. 今井 昌人（有限会社 O'S フード所属）
3. 田中 健太（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 卒業生）
4. 星野 正純（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校長）
5. 木下 光（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 副校長）
6. 後藤 一宏（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 学科長）
7. 鈴木 博明（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 調理師専科 学科長）
8. 岩田 壮介（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務長）
9. 山田 直瑠（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務職員）

以上9名

2. 2021年度 自己評価（2020年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	評価：ほぼ適切である。 課題：将来の構想が出来ていない学生が増えている。教育理念が伝わっていない可能性もある。 保護者や企業（特に個人事業主）に対して、育成人材像の明確な理解、周知が不足している。業界の求める人材像の学生への周知。 改善策：教育理念・目標は周知並びにそれらの理解をしてもらうための努力を継続していく。 様々なニーズが変わる分岐点であるため、目標はそれを踏まえて検討をしていく。
(2) 学校運営	評価：ほぼ適切である。 課題：事象によりトップダウンが薄い場合がある。 改善策：学校全体の取り決めをしっかりと確立させることが必要である。就業規則に関し

	<p>ては改良段階であるため、さらに評価の改善を図っていく。</p> <p>情報システムによる、効率化を目指すと同時にリテラシーの周知。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：教職員の育成と研修の必要性、学校理念の周知。</p> <p>関連分野との取り組みのためのカリキュラムの見直し。</p> <p>改善策：新型コロナの影響で実施できない研修が多くあったが、その中でも学校側から教職員に投げかけることが必要となってくる。カリキュラムの見直しについては、教育課程編成委員会の中で検討を進めていく。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：卒業生の活躍の把握。就職意識が薄い、動き出しが遅い学生がいる。</p> <p>改善策：同窓会が開催できない中で出来ることに取り組むことが必要。</p> <p>様々な学生がいる中で、個々にあった教育ができる環境を整えることが必要。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：ハード面での環境整備が必要。保護者との適切な連携。卒業生への支援体制や社会人ニーズを含めた教育も必要となってくる。</p> <p>改善策：ハード面は数年後に学校再編を行う予定のため、それまでは今ある環境を効率よく活用していく。オンラインでの講義等で保護者の協力が必要になる場合がある。卒業生への支援体制については、両学科ともに同窓会を活用していく。社会人への対応、取り込みについては、教育訓練給付金制度のPRを活かしていく</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：施設・設備の不十分さの解消。インターンシップへの対応（コロナによる受入れ企業数の減少）。防災体制が必要。</p> <p>改善策：今ある教室の改築や備品の移動、改良にて負担を最小限にしている。</p> <p>インターンシップは、その主旨について企業側から理解が得られるよう努力する。</p>
(7) 学生の受け入れ募集	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生募集活動に関して、教育成果が正確に伝わっているか。</p> <p>改善策：外部への発信（学生の学習成果等）、教職員の教育活動・成果等についても適切に伝える必要がある（HP、SNSの活用、動画作成など）。</p>
(8) 財務	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学園の財務状況はHPにて確認できるが、その周知が不足している可能性がある。</p> <p>改善策：積極的な情報発信をしていることの周知徹底をする。</p>
(9) 法令等の遵守	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：個人情報取り扱いをどこまで徹底するか</p> <p>改善策：関係部署との意識の共有、さらなる厳格なルール作成。</p>
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：学生のボランティア活動が不足している。公開講座や教育訓練が足りない。</p> <p>教室・実習室を使った地域貢献ができているか。</p> <p>改善策：コロナ禍で対外活動が制限されていることもあり、出来る状況になったらしっかりと取り組んでいく。</p>

3. 2021年度 学校関係者評価 (2020年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	この年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、教育活動が著しく制限された年度であった。それにより、例年の評価基準・体制とも違った形となってきた。しかしながら、何よりも学生が夢を持てる業界、学校であるために、常に学生と向き合い、保護者・関係者等と連携し、状況の把握、改善を図り、よりよい教育を提供していくことが肝要である。

	<p>また、社会情勢や家庭環境等により心身ともに不安定になる学生もいるため、そういった場合にもしっかりとフォローができる体制を整備していただきたい。</p>
--	--